義太夫

義太夫協会会報
第51号
平成3年8月21日
社団法人　義太夫協会発行
〒104　東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL（3541）5471

協会の近況

会長　田辺秀雄

本牧亭の閉鎖で常打ちの会場を失い、毎月の例会をどこで開こうかと心配させられた問題は何とか国立劇場の御好意で演芸場を毎月優先的に借りることが出来、その後の入りもまずまずでやっと安心かと思えば、今度は世代の交替の時期がやってきたのか、それを維持してゆく出演者が少なくなり、特に三味線が足りなくなるという、またまた頭の痛いことが続いている。

だがこれは当義太夫協会だけのことではない。他の邦楽の分野でも多かれ少なかれ抱えている問題である。伝統的な邦楽の今日における意義はここに改めて述べる必要はないと思うが、私は邦楽を次の世紀に何とかこわさずに引き渡したい、それが我々の責任であり、義務だと思っている。

ところが、悪いことばかりではない。昨年は日本芸術文化振興会の振興基金から毎月の例会に対して補助金がほとんど申請に近い金額で下りた。それに今までの文化庁からの補助金も今年の分はもう決定された。ともかく経済的には充分とは言えないにしても今までのような苦しさは減ったと言えよう。これも関係各位の御理解と協力、会員の熱意の賜と感謝している。他に朗報として鶴沢悠美に昨年度芸術選奨文部大臣新人賞が与えられたことは大変喜ばしい。

事業も順調に行われ、毎月の例会の他、義太夫教室も数年前から見ると格段に成果を上げているようである。今年などは参加希望者が多く、会場が手狭になってきた。受講者も大変熱心で、その後の中級や上級への関心も多いように見えた。新聞社の取材などもあり、話題にもなっているようである。一日教室も太夫、三味線同じ様に盛んである。また学校巡演も余り盛んとは言えなくても続けられている。今年も東京台東区の白鷗高校で予定されている。このような事業は義太夫愛好者の底辺を広げるとともに、将来の演奏者を獲得するのに大いに役立つことである。これらを推進している会員達も熱心であることは喜ばしい。

初めに述べたような出演者の減少というようなことは中々対策が難しい問題である。大阪や名古屋その他の義太夫家を招くことも私は賛成なのだがそれも状況は東京と同じことである。結局会員達が頑張って修業して欲しいということと、新しい会員を増やし、それを育てるしかない。それには種々な隘路もあるだろうが、何とかして行かねばならない問題である。

最後に私事だが、この四月私の喜寿と夫妻の金婚の祝いが友人たちで行われ、義太夫協会も大変協力して頂いた。特に祝賀演奏では車人形も加わって大人気であった。私の生涯での忘れられない思い出になった。皆様の御厚情に深く感謝する次第である。

七十年前の越喜美さんの事

相談役　豊澤猿三郎

今から七十年程前、竹本越喜美さんという十代の娘義太夫がいました。其の頃は、うまい人といえば先年亡くなった糸三、よい声でお客を喜ばす朝重（初代）でした。両者ともお客を呼べる芸で、「どうする、どうする」と拍手で賑かでした。越喜美に来るお客はシーンと聴いて、稀に拍手するとシッと制止されるのでした。或るお方の前で演奏の時は、「芸名はいかん、本名の肥田喜美子。三味線は師匠の組春で、乳母である」として勤めました。

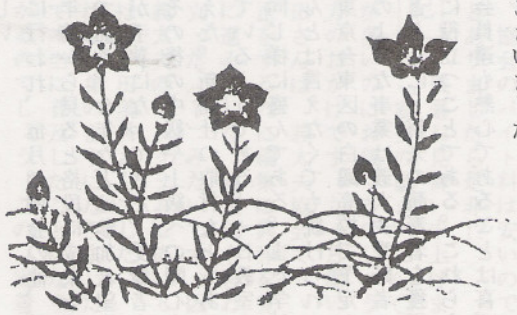
余りにも評判なので、小清師匠が一度聴きたいと、ご自分の出ていられる席のお客さんに「何日の夜は私、三枚目でやらせて頂き、切りは清幸に語らせます」とお願いして、愈々其の夜は、役を済ますと清一を供に、二人ともお高祖頭巾で顔を隠し、越喜美の気をそらさぬ様に聴きました。其の夜は、前から調べておいた「湊町」です。之は十人の人物の出る「湊町」を、どの様に語り分けるかが聴きたかったのです。老人二人をどう語るか、お夏、お梅、小半の二人の若い女をどう語るかです。終って表へ出て、小清師匠は清一に言いました。「恐ろしい子や。十人の語り分けを、首と眼の動きでハッキリ判らせる。一段教えて見たいナ」と。其のお言葉を清一が組春に伝えました。組春は願うも勿体ないお言葉と、日を選んで越喜美を連れて築地の小清師匠のお宅へ伺いました。

師匠は早速お稽古にかかり、用意して有りました「冥途の飛脚」を全段お語りになりました。越喜美は眼を伏せてお聴きしました。毎日同じ事の繰り返しでしたが、五日目は、本は一字も見ず、師匠の口だけを見つめて居ました。終って「あすからおまはん一人で語って見なはれ」と申され、組春、越喜美の二人を帰し、清一に「なんぼあの子でも此の全段はよお判らんやろ。おまはん、あす、弾いてやって語らせて見なはれ」

その翌日、語らせて師匠は驚きのお顔でした。まくらが終り大勢の女郎のやりとり、梅川の歎き、八右衛門のいやがらせ、忠兵衛の短慮から役所の金の封印切り、梅川に「此の金は、私がやまとを出る時、親・孫右衛門様から戴いた金じゃ」と言う。其の座に居た女郎や皆が安心して祝いの言葉をかける。「此のお喜びは千日言うてもよい事じゃ」、と忠兵衛が「其の千日が恐ろしい」（註・千日前は磔場所なので、忠兵衛は追付け、自分が仕置きにあうのを予感して居たのです。）其の言葉をふるえ乍ら言ううまさ。小清師匠は聞き惚れました。終って「あすから磨きを掛けにゃならん。清一によう頼みなはれ。」これがご縁になって、以後は清一が弾く事になりました。

其の後、何年かして、お嫁にゆきなさったか、ふっつり義太夫界から姿を消されました。ご承知の方もおいでしょうが、お菓子の岡埜総本店の娘さんです。お達者なら私より、幾つかお若いので、八十幾つかで居られましょう。

ご退屈様でございました。



国立の女流公演と宣伝

六月には「演芸場満席」ついに達成！

永年お世話になった本牧亭から、関係各位のお力添えにより国立演芸場に移って、早いもので一年八ヶ月になりました。御承知の通り、三味線陣に故障者が続出し、企画委員会も公演部も毎月頭を痛めつつ、お客様の声に耳を傾け、何とかよりよい番組をと努力しているのが現状であります。

どの月も全力で頑張っておりますが、特筆すべきは、六月の吉川英史名誉会長企画構成になる「語り物の中の義太夫と常磐津」でしょう。国立移転以来の悲願（？）であった、「演芸場満席」をついに達成することが出来たのです。三百席の会場に三二四名の御入場、座れなかった方にはおわび申し上げる次第です。義太夫と常磐津を比べるという企画は以前から提案されていたものですが、常磐津節保存会の全面的な御協力により実現の運びとなったものです。また、当日はレジメ等配布物も大幅に足りなくなってしまい、御希望の方に後日郵送するというれしい誤算、この作業は、事務局アルバイトの田坂さんと荒木田さんの奮闘で無事終えることができました。

続いて七月公演は、神奈川県立厚木東高等学校人形浄瑠璃部ＯＢ会をゲストに迎えましたが、これも満席に近い盛況でした。この七月公演は、女流義太夫と女性の遣う人形、鳴り物の望月久恵社中も女性ということで、雑誌「演劇界」でも「義太夫は女性がまぶしい」と紹介して下さいましたが、このような記事の効果は本当に有難く感謝する次第です。

義太夫協会は、以前から宣伝不足を指摘されておりましたので、国立移転を機に宣伝（但、あまりお金をかけない）に力を入れ始め、その「継続」が効を奏してきたのかもしれません。本年度総会での渉外広報部の報告（議案書）には次のように書かれていました。

A．従来の新聞社のほかに情報誌等へ積極的に働きかけた。また、大学の歌舞伎研究会・劇団の養成所等にもダイレクトメールを送った。

新聞には、特に大きくは取り上げて貰えなかったが、催し物あるいは情報欄にはコンスタントに掲載された。

＊**義太夫教室、義太夫・三味線一日体験教室**

「ケイコとマナブ」に掲載。

＊**女流義太夫演奏会**

「ぴぁ」「邦楽ジャーナル」「東京かわら版」「朝日メイト」「文楽メイト」「あぜくら」「国立劇場ニュース」「邦楽と舞踊」「舞踊芸術」「季刊邦楽」等に定期的に掲載。

B．「あぜくら会会員」「朝日メイト（朝日新聞友の会）」会員割引も定着してきた。

C．「文楽メイト」のダイレクトメールに、女流義太夫演奏会のチラシを同封させて頂く継続的な協力も大きい。

D．女流義太夫のポスター（女流義太夫後援会・高野俊雄氏寄贈）を、以下の各所に定期的に掲示。

国立劇場、歌舞伎座３階、文化堂レコード店、大野屋足袋店、芸団協事務所、江戸東京博物館、下町風俗資料館、その他都内高等学校・大学等約20校。

ほかに、国立演芸場に来場される会員に持ち帰って頂くポスターを含めると、毎月50枚を越えるようになった。

E．チラシ配布の依頼があった場合は、代わりに女流義太夫演奏会のチラシ配布を依頼した。麻布工芸館、横浜開港資料館、結城人形座等。

九月は、初代義太夫の命日に因んで、景山正隆東洋大学教授（義太夫協会監事・公演企画委員長）の企画構成です。**十月**は、東京都無形文化財「八王子車人形」西川古柳座がゲスト。**十一月**は、竹内道敬国立音楽大学客員教授（義太夫協会相談役・公演企画委員）の企画構成。**十二月**は恒例「心身障害児の為の特別公演（チャリティ）仮名手本忠臣蔵」と内定しております。どうぞ今後とも、よろしくお願い申し上げます。

義太夫教室第44期初級コース終了

皆勤22名・惜しくも一回欠席が８名

義太夫教室第44期初級入門コースが7月22日、盛況裡に終了しました。応募者76名も新記録なら。初級修了者63名も新記録、皆勤賞22名、惜しくも一回だけ欠席した人が8名という出席率の良さでも新記録。新記録づくめの44期生のアンケートから、主に受講の動機を中心に抜粋してみました。

9月からの中級に進む人は、8月12日現在、語り24名、三味線27名。これも多分新記録になることでしょう。

［受講の動機など］

＊兼ねがね江戸時代の歌舞音曲の流れ等を知りたいと思っておりましたので、非常に有益でした。洋楽の専門的な教育機関は整っているのに邦楽のそれは余りありません。いろいろな分野のしっかりした教育機関が出来ればいいなとおもっています。

＊歌舞伎が好きだったため、少しでも観劇の際に理解が深まればとこの教室にいれて頂いたのですが、義太夫そのものに（芝居とは独立したものとしても）親しみと興味を持てるようになりました。

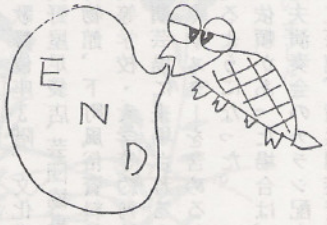
＊歌舞伎や文楽を見るのが好きで、又、歌舞伎の脚本に興味があって、浄瑠璃について知りたいと思っていました。6月に新橋演舞場で「摂州合邦辻」を見た時、義太夫を聞く耳が少し良くなった気がしました。

＊私はアマチュアで芝居をしておりまして、邦楽の強い声と語りのリズム、ビートについて少しでも学べればというのが受講の動機です。その立場からいえば発声法の練習、節のとり方、息のとり方などの実践的なレッスンがあるとよかったと思います。

＊鑑賞の参考になればと軽い気持ちで申し込んだのですが、今までぼーっと観たり聴いたりしていたのが、すんなり聴きとれるようになり、その効果に驚いています。

＊声を出すことに興味があって、また、偶然全国の民族芸能の地図をみた時、全国に人形芝居や語りものがあることを知り、人の間でこんなにひきつけられていたものを体験してみれば、なにかわかることがあると思って参加して良かったと思います。

＊歌舞伎の中でしか義太夫は聞いたことがありませんでしたが、太棹三味線の音色にとても興味を覚えていました。ですから、三味線の実習があったのはとても嬉しかったです。また、義太夫を自分の声で語り、ますます好きになりました。



（最近はイラスト入のアンケートが増えています。）

＊三味線の実技を2回行なって頂きたかった様に思います。1回では、夢中ですぎてしまい、終り頃にやっと判るように思えた処で終了ということになるので、もう一度あると多少はっきりするのではないかと思いました。

＊二ヶ月間があっという間に終ってしまった感じです。朝重先生・綾一先生、とてもステキな方で足のしびれも何とかこらえることができました。

＊義太夫を語るということは大変難しいことがよく分りました。習ってみて、太夫さんや三味線が本当に大変な修業のうえで演じておられることが理解でき、私の鑑賞の力もかなりあがったことが今回の最大の収穫でした。

＊歌舞伎・人形浄瑠璃も好きですが、そんなに沢山みていないので、先生が知ったものとして外題、さわりの部分をお話しになっても判らないことが多くて……そうした人も教室に参加していることを知っていただきたいと思います。

＊思っていたより大勢の方がいらっしゃった事、若い方、中高年の方、その年令層の広さに驚かされ、又、義太夫がこんなにも世の中に受け入れられている事に喜びを感じました。その内、落伍者も出て人数も減るのではないかと思っていましたのに、皆様熱心で、又驚かされました。

文化往来

（平成3年8月6日付、日本経済新聞朝刊コラム「文化往来」より転載させて頂きました。）

義太夫教室盛況に
関係者の表情複雑

義太夫協会主催の義太夫教室が盛況だ。義太夫の魅力を多くの人に知らせようと、教室を再開したのが昭和四十六年。以来、毎年平均四十人が受講しているが、昨年は五十人を超え、今年は約七十人が受講した。この活況を支えるのは、二十代のOLを中心にした女性だ。

情報誌など印刷媒体に取り上げられたことが功を奏したようで、「義太夫は聴くものと思っていた」という愛好者を掘り起こした。六、七月の女流義太夫演奏会も満席だ。

義太夫人気復活の兆しと思いがちだが、協会事務局の表情は複雑だ。教室期間中は熱心だが、卒業後も師匠について学ぼうという人がめっきり減った。「のめりこむ人が少なくなった。すそ野が広がったと喜んではいられない状態」だからだ。

加えて、女流義太夫の後継者難と指導者不足も頭が痛い。文楽、歌舞伎という職場のある男性と違い、女性は義太夫では生活できない。働きながら情熱に支えられて芸を磨いているのが実情で、個人の犠牲の上に女流義太夫の伝統は成り立っている。

指導者になる五十、六十代の働き盛りが極端に少ないことも、女流義太夫の将来に影を落としている。義太夫協会では今年度から、女流義太夫の演奏者を目指す人材を発掘すべく、演奏会のプログラムで呼び掛けを始めた。だが問い合わせはあるものの、現在のところ本格的に取り組もうという人はいない。

いかに聴衆を動員して、女流の魅力を大衆にアピールし、女流義太夫の継承の必要性を知らしめるか。関係者からは歌舞伎や文楽の後継者養成のような研修制度があってもよいとの声も聞かれる。教室の盛況とは裏腹の厳しい状況の中で、義太夫協会は打開策を探り始めた。

一日体験シリーズ　人気うなぎのぼり！

――三味線は今年も追加クラス――

四月に「義太夫の一日体験教室」五月に「三味線の一日体験教室」を行ないました。毎年人気はうなぎのぼりで、特に、三味線は早々と定員突破、今年も一クラス追加いたしました。語りは講師の経験豊富な竹本朝重副会長、三味線は鶴澤悠美の初挑戦でしたが、悠美の感想はただ一言「体力が勝負！　声が枯れてしまいました」とのことでした。助手として、「身を粉にして」奮闘してくれた竹本（歌舞伎義太夫）の若手と普及部員達の助けで実になごやかな教室風景がくりひろげられました。「どうでしょうか、ここまでに問題はあるでしょうか」「ついに、とうとう左手を使います」「スバラシイ！　バッチリですねぇ、じゃ次に行ってしまいます、ハイッ」等々ユニークな悠美語録が連発された三味線の体験教室でした。尚、語りの体験教室は女流義太夫の四月公演の様子といっしょに、5月13日、ＮＨＫテレビで報道されました。

（会場は、いずれも演舞場スペース・アルファ）

「義太夫（語り）の一日体験教室」
平成3年4月13日
『絵本太功記　尼ヶ崎の段』
講師―竹本朝重

参加者51名（男17名・女34名）
アンケート解答42名
（男13名・女26名・無回答3名）
＊義太夫を語るのは　初めて40名　経験あり2名「前回の一日体験教室にて」
＊他の邦楽の経験が　ある11名　なし24名　無回答7名
＊年代　10代―3名　20代―19名　30代―6名　40代―3名　50代以上―9名　無回答2名

以下、設問順に答えて頂きました。

①義太夫を語るのは　②他の邦楽の経験が　③一日体験に参加の動機　④年代　⑤性別　⑥これまで義太夫に対して持っていたイメージ　⑦体験して、そのイメージがどう変わったか　⑧感想

①初　②なし　③歌舞伎文楽で耳にする義太夫を自分で語ることに興味を持った為　④20　⑤女　⑥心地よい気持　⑦心地よいどころか難しい!!　⑧自分は専門で声楽を勉強していましたが、楽譜に慣れていたので、楽譜がなくて音の長短高低を自分でつけるということが大変難しく感じました。

①初　②なし　③元禄文化の授業に少しでも役立てたい　④20　⑤女　⑥言葉が聞き取れず理解しにくい。⑦「語り」の決り（のばすところとか）を理解していると聞きやすくなると思う。　⑧正座をする習慣が大切だと痛感した。体験せずに義太夫節のことを語れない！

①初　②なし　③知人の紹介　④20　⑤無記入　⑥全く知らなかった（ＮＨＫで日曜日にやってたような）　⑦奥が深い　⑧興味深い。

①初　②なし　③パンフレットで　④30　⑤女　⑥日本の伝統芸能のひとつとしか思っていなかった　⑦内容がとても物語であると感じた。語るのは難しかったが解釈がよかった。⑧難しいの一言、でも楽しかった。大変さを知ることができた。

①初　②なし　③語り物をやってみたかった。④20　⑤男　⑥無記入　⑦無記入　⑧なまで見たのは初めてでした。三味線との微妙な呼吸はとてもスリリングでした。

①初　②なし　③DMがきました。　④20　⑤男　⑥難しそう　⑦普通の本、一般の小説などと変わりがないんだと思った。むしろ、明確になっていてわかりやすい。　⑧有難うございました。

①初　②あり「長唄」　③二、三年前からやりたかったのですが、なかなか機会がなく、チラシをみかけた時は本当にうれしかったです。　④30　⑤女　⑥ただ美しい節回しをきかせるだけではなく生身の感情がはっきり伝わるわかり易い芸だと思います。⑦変わらなかった。⑧もっとつっこんでやってみたい。

①初　②無記入　③先生につくほどはどうかと思ったので、一日体験ならちょうどよいと思って。④20　⑤男　⑥古典は古くさく力のない元気のないものと思っていたのですが、歌舞伎や文楽できいて、その表現力のすさまじさにびっくりして考え直したところでした。⑦ウナルところなど、きちんと計算されていたのでびっくり。個人が勝手なことはできないのですね。　⑧おといくらいから、今日のことを考えてドキドキしてました。先生がおっかないかなぁ、足は大丈夫かなぁ、などと。でも、先生は親切でとても分かりやすくて、感じがよいし、休憩もあってやりやすかったし、心配の必要はなかったと思いました。義太夫は思っていたより難しかったですが、体験教室はとても楽しかったです。これからも御活躍を。

①初　②なし　③演劇をやっているため勉強にと　④無記入　⑤無記入　⑥表現力豊かなイメージ　⑦変わらなかった。⑧本当に難しかったが面白かった。

①初　②あり「長唄三味線」　③常々経験してみたかった。　④50　⑤女　⑥リアルな節まわし。義理・人情を考えさせられる。⑦より深さがわかった。　⑧足のしびれがひどく失礼しました。

①初　②なし　③文楽が好きだから　④30　⑤女　⑥眠くなるとか言葉がよくわからない　⑦重労働です。⑧短いフレーズにいろいろ意味があって考え考えレッスンしました。

①初　②なし　③知人の紹介　④10　⑤男　⑥とてもいろっぽいものだなぁ　⑦その人のもっているいきなものが命なんだなぁ　⑧とてもいい先生に教えていただいて、ほんの少しの時間でしたが、勉強になりました。

①初　②無記入　③無記入　④20　⑤女　⑥力強くpowerful少々老人くさい　⑦女性なりの艶っぽい義太夫もよかったです。⑧初体験！　体験すると又違う意味で興味が湧いてきました。

「三味線の一日体験教室」

平成3年5月18日

手ほどき―鶴澤悠美

助手―野澤松也　鶴澤宏太郎　豊澤浩樹　普及部部員他

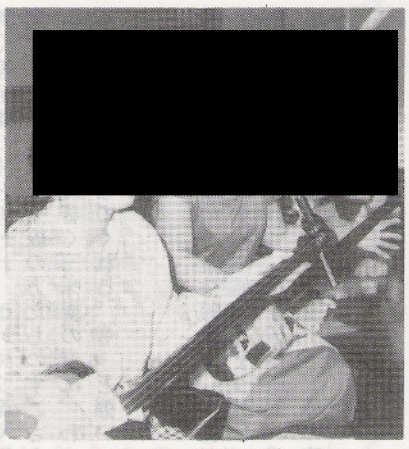
参加者2クラス合計77名　（男14名　女63名）

アンケート回答75名（男14名　女61名）

＊三味線を弾くのは初めて51名　経験あり21名　前回受講した3名

＊三味線以外の楽器の経験が　ある45名　なし19名　無回答11名

＊年代　10代―5名　20代―25名　30代―14名　40代―15名　50代以上―15名　無回答1名



やはり今年も女性が多い

以下、設問順に答えて頂きました。

①三味線を弾くのは　②三味線以外の楽器の経験　③年代　④性別　⑤太棹の音のイメージ　⑥感想

①初　②あり［ピアノ］　③20　④女　⑤どんな楽器よりも表現力があると思います。ただし、きちんとした技量が奏者にあれば――の話ですが。⑥楽器が昔から苦手だった私が何を血迷ったか、楽器の中でも一番人を選ぶ太棹をやってみようとは、何と浅はかだったのでしょうか。でも一人前にできたらこれほど楽しい（というのはゴヘイがある）ものはないだろうと思います。

①初　②あり［アコースティックギター］　③10　④女　⑤無記入　⑥実物の三味線を見たのも初めてだったので大変楽しかった。またこういう機会をつくっていただきたい。

①初　②なし　③20　④女　⑤深みがあって重みがある。川の流れ・淀みを連想する。⑥先生がとても若い方なので驚きました。御自分がお弾きになる時は、ひとつひとつの音をとても大切に真剣に弾かれたのでとても好感がもて、ステキでした。

①初　②なし　③20　④女　⑤無記入　⑥三味線もバチもすっごく思いのでビックリ！小指が痛かったですが、面白かったです。でももやっぱり観てる方がいいと思いました。

①経験あり［長唄］　②あり［ピアノ］　③無記入　④女　⑥無記入　⑥聞くのと弾くのでは大違い。自分で弾いた音はひどすぎる。指の痛みより正座の痛みより得るもの大でした。

あのソプラノも枯れてしまった　鶴澤悠美

①初　②あり［エレキギター］　③20　④男　⑤無記入　⑥予想していた奏法と違い意外であった（糸だけでなく皮にバチを当てること）バチの痛さはともかく正座が厳しい。でもちゃんと音が出ると心地よい。ビーンという音が良かった。

①経験あり［地唄］　②無記入　③50　④女　⑤力強い、お腹にズシンと響く。⑥とても楽しうございました。先生が可愛らしかった、病みつきになりそ――。思ったより力がいりました。

①経験あり［長唄］　②あり［無記入］　③50　④女　⑤ダイナミックで面白い。⑥長唄と義太夫の両方は無理とわかった。

①初　②あり［和太鼓・インドネシアの楽器総称ガムラン］　③20　④女　⑤華厳の滝の滝つぼ　⑥めったにできない事なのでとても楽しかった、もっと時間があるといいけど。

①初　②あり［ピアノ］　③20　④女　⑤重くって暗くて昔の芝居小屋がよく似合いそうな……　⑥思ったより体力がいりましたが面白かったです。

①初　②なし　③60　④男　⑤力強い　⑥なごやかな雰囲気の中でみな楽しそうでした。先生も若く可愛らしいので大変良かったし、適切でした。助手の方の数も十分配置され、御親切に一対一の御指導で嬉しかったです。

①経験あり［長唄］　②あり［ピアノ］　③30　④女　⑤情念　⑥バチが太く大変持ちにくく手が痛いので驚いた。これで早いものを弾く等至難の技と思われ、改めて文楽や歌舞伎で見た義太夫三味線の方たちのすごさを思い知った。お腹に響く三味線の音は、わくわくした気分にさせてくれる。もっと弾いてみたい。

①経験あり［昨年の一日体験教室］　②なし　③40　④女　⑤頼りがいがあるなつかしい男の人（お父さんとか）　⑥音が心地よい。来年もまた来たいと思っています。太棹の演奏会はありませんか。

①経験あり　②なし　③50　④女　⑤憧れの音　⑥短い時間なのに太棹のエスプリを最大限に伝授していただきました。出来れば何回か続けたいものと思います。

①初　②なし　③20　④女　⑤無記入　⑥弾くと聴くとは大違い。観劇の参考になると思う。結構面白かった。

立ったり座ったり
助手が一番キツかった（？）

①初　②あり「ピアノ・チェロ」　③20　④女　⑤洋楽で例えるとコントラバスでしょうか。でも、不思議と表現力を感じます。お腹に響くというより心に響くとでも言いましょうか……　⑥前からずっと三味線を弾いてみたかったので、楽しかったです。機会があったらまで是非弾いてみたいです。

①初　②あり「ピアノ・クラリネット」　③10　④女　⑤歌舞伎座で使われているのも太棹なんですか？　⑥先生のような音は出なかったのですが、いい音だと思います。2時間という時間がとても短かったです。

①初　②あり「ピアノ・バイオリン」　③20　④女　⑤ゆれる心の音　⑥あっという間の2時間でした。手がふるえてしまって……

①初　②あり「ピアノ」　③40　④女　⑤阿波の十郎兵衛・おつる。人情、しがらみ。⑥面白い、脳軟化の予防によさそう。

①経験あり　②なし　③50　④男　⑤無記入　⑥同じ三味線でも細棹と全く違う弾き方に驚きました。大変勉強になりました。

①初　②あり「ギター」　③20　④女　⑤無記入　⑥バチが重いので迫力あっていいですね。インストラクターのお姉さまが最高でした。教師の鑑だと思います。ふざけてません、本気です。

三味線の一日体験について　どこで知りましたか？

参加者77人に聞きました

（順不同　複数回答）

ダイレクトメール	21名
女流義太夫演奏会に来て	3名
チラシを見て（歌舞伎座）	5名
（下町風俗資料館）	2名
（室町会）	1名
（場所不明）	1名
語りの一日体験のテレビを見て	2名
文楽メイト	3名
朝日メイト	1名
ぴぁ（歌舞伎）	2名
ケイコとマナブ	2名
語りの一日体験に参加して	3名
知人の紹介	13名
新聞で	28名
不明	3名

協会の動き

'91年3月より
'91年8月まで

仙廣師を偲んで　駒登久を中心に

演芸場の舞台から　（写真提供　鶴澤駒登久師）

［平成二年度］

3月12日　学校巡演　於陵南中学校
3月18日　義太夫教室第43期上級コース修了式　於演舞場スペースアルファ
3月21日　女流義太夫演奏会「故豊澤仙廣師を偲ぶ」第六回豊澤仙廣賞　鶴澤駒登久受賞。仙廣師に捧げる「野崎村段切」は駒登久を中心に女流総出演で演奏した。於国立演芸場
3月25日　義太夫節保存会平成2年度文化財保存事業実績報告書提出
3月26日　あぜくら誌　女流義太夫演奏会広告掲載年間契約
3月27日　芸術文化振興基金平成3年度助成金交付要望書提出
3月29日　平成2年度民間芸術等振興費補助金（青少年等芸術普及）実績報告書提出

［平成三年度］

4月8日　平成2年度芸団協助成新人奨励賞　竹本泉太夫・鶴澤泰二郎が受賞
4月10日　竹本研修選考試験　於国立劇場
4月11・12日　NHK関東ネットワークにて一日体験教室情報放映
4月13日　義太夫の一日体験教室　講師―竹本朝重　（6・7頁参照）　於演舞場スペースアルファ
4月15日　公演部会　於事務局
4月16日　平成3年度民間芸術等振興費補助事業計画に関する事情聴取　於文化庁特別会議室
16日　公演部・国立演芸場打ち合わせ　於国立演芸場
4月18日　平成2年度芸術文化振興基金助成事業（女流義太夫演奏会）実績報告書提出
4月20日　田辺秀雄先生の喜寿と金婚をお祝いする会　併せて「田辺秀雄のみんよう談義」出版も祝う心あたたまる会であった。　於東海大学校友会館
4月21日　女流義太夫演奏会　桜の季節に因んで　特集「義経千本桜」4月公演より開演を30分繰り下げ、6時30分とした。開演前に「みす内」として若手の勉強の場（料金外）をもうけた。　於国立演芸場
4月22日　第12期竹本研修、第7期鳴物研修、第8期寄席囃子研修生開講式　於国立劇場
4月25日　定例理事会　於銀座区民館
4月30日　平成2年度東京都文化財保存事業費補助金の額の確定通知
30日　平成2年度文化財保存事業費国庫補助金の額の確定通知　（4月10日付）
5月1日　学校巡演　由木中学校
5月8～10日　テープ類大整理　於事務局

5月13日　三味線大整理　於事務局
5月15日　公演部・国立演芸場打ち合わせ　於国立演芸場
5月17日　常務理事会　於文明堂
17日　平成2年度芸術文化振興基金助成金の額の確定通知（3月31日付）
5月18日　三味線の一日体験教室　講師－鶴澤悠美　応募多数の為追加クラスを設けた（6～9頁参照）　於演舞場スペースアルファ
5月21日　女流義太夫演奏会　母の日に因んで　特集「母」　於国立演芸場
5月27日　義太夫教室第44期初級入門コース開講　76名の応募があった。　於演舞場スペースアルファ
6月6日　平成3年度文化財保存事業費国庫補助金交付申請書提出
平成3年度文化財保存事業費東京都補助金交付申請書提出　於事務局
6月11日　三味線大整理
6月12日　義太夫協会監事による諸帳簿等監査　於事務局
6月13日　平成3年度民間芸術等振興費補助金（青少年等芸術普及）の額の確定通知（4月27日付）
6月18日　芸団協総会　朝重副会長出席　於京橋会館
6月21日　教師のための義太夫講習会「語り物の中の義太夫と常磐津」企画構成講演－吉川英史　常磐津節保存会の協力により女流の常磐津と義太夫の共演が実現した。平成2年1月に国立演芸場に移転して以来の入場者新記録を樹立（三二四名、3頁参照）　於国立演芸場
6月23日　平成3年度通常総会　平成2年度事業報告・収支決算報告、平成3年度事業計画・予算案を審議、原案通り可決した。　於文明堂
6月24日　コマ大整理　竹本弥乃太夫・鶴澤正一郎両師により点検・分類　於事務局
6月27日　平成4年度民間芸術等振興費補助金概算予算提出
7月1日　常務理事会　於文明堂
7月5日　SPレコード原盤　賛助会員・篠田秀一氏宅に委託
7月9日　普及部会　於事務局
9日　公演部会　於事務局
7月11日　賛助会員にコマ売出し開始　於事務局
7月15日　VTR大整理　於事務局
7月16日　公演部・国立演芸場打ち合わせ　於国立演芸場
16日　伊三郎師寄贈ノート類大整理　於事務局
7月18日　猿幸師寄贈テープ大整理　於事務局
7月21日　女流義太夫演奏会　ゲスト－神奈川県立厚木東高校人形浄瑠璃部ひがし座OB会（3頁参照）　於国立演芸場
7月22日　義太夫教室第44期初級入門コース閉講。63名卒業、皆勤が22名。（4・5頁参照）　於演舞場スペースアルファ
7月31日　事務局アルバイト荒木田美香さん正式就職のため、退職
8月16日　三味線大整理　於事務局
8月21日　義太夫協会会報第51号発行

ひがし座ＯＢ会　（撮影 佐藤ゆり江氏）

『祖先祭』御案内

義太夫協会では、9月10日が義太夫節の祖・初代竹本義太夫の祥月命日であることに因んで、9月公演は初代竹本義太夫に関する企画とし、また左記のように『祖先祭』を催しております。初代はじめ諸先輩の功績に感謝し、追善供養するための『祖先祭』に皆様も御一緒なさいませんか。

記

＊平成3年9月29日（日）11時～
＊両国「回向院」（二六三四）七七七六
（総武線両国駅より2分）
＊墓参・本堂にて読経のあと懇親会
＊参加費－千円（定員60名）
＊お申込みは9月21日までに協会へ

「卒塔婆より」

南無阿弥陀仏為義太夫元祖
釈道喜追善増上菩提

南無阿弥陀仏為義太夫協会
先亡之諸精霊追善菩提

㈱釈道喜は初代義太夫の法名

［新刊御紹介］

＊宮川孝之写真集「八王子車人形」
－八王子に花開いた庶民文化の華－
義太夫協会公演会でもお馴染の車人形・四代目西川古柳座の美麗な写真集です。
株式会社ぎょうせい刊
三一〇〇円

＊田辺秀雄著「田辺秀雄のみんよう談義」
田辺秀雄義太夫協会会長は、あまたの会の会長等要職についておられますが、日本民謡文化協会の会長でもあります。永年「みんよう文化」誌に連載されたものをまとめて、このたび出版となったものです。
産経新聞ピーアール発行
三二〇〇円

＊石井英子著「本牧亭の灯は消えず」
本牧亭を女手ひとつで守り育てた席亭、おかみさんの波乱の一代記。なつかしい芸人さんはじめ、下足のおじさんや、岩崎さん達の名前も続々登場します。
駸々堂刊
一六〇〇円

※本牧亭で、おかみさんの片腕となって働いた支配人の岩崎さんが、いま入院中だそうです。一日も早い御回復を！

御寄付（平成2年12月～3年7月）

今井田鶴子様　三〇〇、〇〇〇円
大日本素義会様　五〇、〇〇〇円
鶴澤重輝様　五〇、〇〇〇円
吉川英史様　三〇、〇〇〇円
松井一男様　三〇、〇〇〇円
和田博様　二〇、〇〇〇円
堀田鶴子様　一〇、〇〇〇円
河合スミエ様　五、〇〇〇円
野田勝也様　三、〇〇〇円

平成2年度特別会費（2口以上）

山田操様　3口　三〇、〇〇〇円
和田博様　3口　三〇、〇〇〇円
松井一男様　2口　二〇、〇〇〇円

三味線・バチ・コマ　床本・稽古本　お頒けします

若干ですが、三味線・バチ・コマ、床本・稽古本（五行本）をお頒けできることになりました。原則として、義太夫協会の会員で、現在お稽古をしている方に限ります。
お問合せ・お申込みは事務局まで
＊三味線類を購入後、お稽古をやめてしまった方はいらっしゃいませんか。後輩にお譲りいただければ幸いです。
事務局まで御一報下さい。

「寄　贈」

中島　古平氏　文楽プログラム　多数
　　文楽床本　多数
（かつて会員諸氏から御寄贈いただいたものと、今回の段ボールいっぱいの御寄贈分を合わせると、ほぼ完璧に揃うことになりました。）
園田学園女子大学近松研究所様
　近松研究所紀要創刊号　1冊
岡　亨氏（故岡田蝶花形氏御子息）
浄瑠璃時報　昭和10年8月1日（140号）
　～15年11月15日（286号）合本　3冊
浄曲新報　昭和11年1月1日（33号）
　～15年12月15日（89号）合本　2冊
文楽今昔譚（木谷蓬吟著）　1冊
明治大正女義盛観物語　1冊
床本　3冊
スクラップ帳　3冊
野澤　松也氏　アガリ糸　多数
鶴澤正一郎師　アガリ糸　多数
　（空き缶にいっぱい）
平田　智恵氏　床本　1冊
　稽古本　10冊
佐藤　慎一氏　三味線微調整用経木　多数
堀込　栄氏　胴かけ・音緒等　三味線部品　多数
（義太夫教室ＯＢでもある堀込三絃店の堀込栄氏は、3月以来、事務所内の三味線約50丁について、採算を度外視して順次点検整備して下さっています。おかげで、一日体験教室の77名もの参加者にも対応することが出来ましたし、9月から始まる義太夫教室中級コースの準備も万端整いました。事務所の日誌を見ましたら、3月から8月にかけて、何と19回も足を運んで下さったことがわかりました。本当に有難うございました。また、今後ともよろしくお願い申し上げる次第です。）

会員の手紙

1991年2月28日

義太夫協会の皆様こんにちは。

一月と二月の女流義太夫の公演で私を見なかったのは、オーストラリアにいるからです。それでも、皆様を忘れていないことをお伝えしたいと思ってこの手紙を書いています。いつも、ここアデレードで受取る会報を読んで、出来事と会員様のニュースを期待しています。

今は大学の夏休みで、この時間を使って女流義太夫についての本を書いています。英国のラートリージ出版社との契約に調印いたしました。女流義太夫と義太夫協会のことが全世界に伝えられて、本当にうれしいと思います。来年の初めにこの原稿を完成する予定です。この本は英語で書かれました。けれどもその出版はまた時間がかかるそうですので、どうぞお待ちください。早く日本へ行きたいのですが、来年かもしれません。早く皆様と会いたいです。皆様の御健康をお祈りします。

キミ・コールドレイク

1991年8月7日

前略

今アデレードは冬に入って時々雨が降りますが、東京はむし暑いと聞きました。このＦＡＸを送るのは、お手紙のあて先を次の通りに直して下さいますようお願いしたいからです。（略　14頁参照）来年の七月か八月にまた日本に行く予定です。では、涼しくなりますように。皆様によろしくお伝え下さい。

早々

キミ・コールドレイク

（二通目はオーストラリアからファックスで届いたものです。）

女流義太夫の演奏者

目指す方はいらっしゃいませんか！

後継者不足は、芸能だけでなく総ての「伝統的」分野に共通するようで、既に義太夫のコマを作る専門家は皆無です。それはさておき、自薦・他薦は問いません、お心当たりの方はどうか情報をお寄せ下さい。

新入会員御紹介　（五十音順・敬称略）

住所（住居表示）等変更

＊手渡し方式に御協力を！

国立公演では、翌月の番組をお配りしておりますので、いらして下さった会員各位には郵送を省略させて頂きたく、なにとぞ御了承下さいますようお願い申し上げます。

＊わりこみ電話（キャッチホン）について

事務所は、不在のときは必ず留守番電話をセットしています。もしも、なかなかつながらなかったら、それはおそらく話し中です。わりこみ電話は、「お話し中」のツーツーという音がしません。不在ではありませんのでどうか再度おかけ直し下さい。

＊アルバイトの田坂さんが、芸能全般に精通していることは、かなり知られてきましたが、先月からナント女流演奏会の「めくり」も書き始めました。協会のバイト料は安いので、筆耕の内職などありましたら是非!?

編集後記

残暑お見舞い申上げます。

「協会の動き」に○○大整理というのが多いのにお気づきでしょうか。アルバイトの方のおかげです。九ヶ月働いて下さった荒木田さんは、義太夫協会でカットを描いたり校正をする内に編集に興味を覚えてそちら方面に進みました。編集部も思わぬところで役に立った（？）みたいです。因みに、時々女流義太夫のプログラムに描いていたＭＡさんとは荒木田美香さんでした。

本号は普及活動特集のようになりましたが、定着して初めて本当に普及したことになり、発展へとつながるのでしょう。この「定着」が難関です。今後ともどうかよろしく！